

直方ミニバスケットボールクラブだより

共育コラム

子どもたちからもらった最高のハッピーバースデー

子どもたちから最高の誕生日プレゼントをもらいました。2月14日(水)平日でしたので、通常通り少し遅れて6時前に北小に着きました。練習はアップメニューの時間帯です。いつも通り、体育館横の出入り口のドアをガラガラッと開けて入ったら、子どもたちがドアに向かって全員が集合していました。おそらく私が到着する気配を感じ、集合していたのだと思います。入ると同時に、「ハッピーバースデー・トゥ・ユー…」と歌声が始まり、終わると同時に「誕生日おめでとうございます」と。そして、クラッカー! それだけやって、すみやかにかたづけ、すぐに、中断していたところからいつも通りの練習を始めました。

毎年、子どもたちと私は、どちらかと言うと「きびしい」関係性で距離をとっています。ただ、それだけでは、子どもはきつくなりますので、そこを、今は、盆子原コーチが埋めてくれています。明るく楽しく元気よくという雰囲気関係性を築いてくれていますから、子どもたちはいつも励まされ勇気づけられ前向きに活動できていると思います。

なので、これまでの子どもたちと私の関係性から、こんな“たくらみ”をしかけることはありませんでしたし、私もまったく予想していませんでした。そういったなかでのサプライズでした。発案者は琉碧だったそうで、友絆と話し合って実現したことのようにでした。その場の状況や関係性に臆することなく、自分がやってみたいことを発想できること、ひとりよがりにならないために、キャプテンの友絆に相談し話し合って決めたこと、そのうえで、みんなに自分の考えを話して実行できたこと…、これらの力、プロセスが、とても重要です。

これまでの直方クラブにはなかった新たな風土を生み出してくれています。

わずか1分もあるかないかの出来事でしたが、63年目、最高のハッピーバースデーでした。

こんなうれしい日もあるのですが、いい日ばかりではありません。日が変われば、はめをはずし過ぎて、私からきびしい対応を迫られる時もあります。子どもの成長は行きつ、戻りつです。ただ、少し俯瞰(ふかん)して見ることも大事です。あまり至近距離で、目の前のできごとだけにとらわれ過ぎてしまうと、子どもを追い詰めてしまうことがあります。今回は失敗したけど、少し長いスパン(時間軸)で見ると、だいぶ落ち着いてきたのかなど、失敗も少なくなったかなどか…、そんな見方をしてあげられることで、子どもも救われます。

子どもは子どもとして、親は親として、指導者は指導者として、常に成長途上にありますね。

